

令和元年度用高等学校教科書「改訂版 物理基礎／物基 318」
記述の更新等に関するお知らせ

常日頃は弊社書籍をお使いいただき、厚く御礼申し上げます。

国際度量衡総会の決議に従い、2019年5月20日に国際単位系(SI)の改定が施行されたことを受け、令和2年度供給の教科書より次のように記述を変更いたします。教科用図書検定規則に基づき更新をお知らせいたします。

頁	行	更新前	更新後
117	11-15 脚注	絶対零度を基準(ゼロ)とし、目盛りの間隔はセルシウス温度と等しくなるように定めた温度目盛りを考える ^④ 。これを 絶対温度(熱力学温度) といい、単位には ケルビン(記号 K) を用いる。 ④ 現在の絶対温度は、下限の温度を 0K、水の三重点(固体・液体・気体が同時に存在する状態)の温度を 273.16K として定義されている。	絶対零度を基準(ゼロ)とし、目盛りの間隔はセルシウス温度と等しくなるように定めた温度目盛りを考える。これを 絶対温度(熱力学温度) といい、単位には ケルビン(記号 K) を用いる ^④ 。 ④ 2019年5月20日より、絶対温度の単位 K(ケルビン)は、ボルツマン定数とよばれる物理定数をもとに定義されるようになった。
186	24	1A の電流が 1 秒間に運ぶ電気量を 1C と定義する。	※削除(アンペアの定義改定のため)
190	13-19	1A の電流が 1 秒間に運ぶ電気量の大きさが 1C であるから、 $I[A]$ の電流が $t[s]$ 間流れたときに、導体の断面を通過する電気量の大きさを $Q[C]$ とすると $Q = It, \quad I = \frac{Q}{t} \quad (1)$ が成り立つ。1C = 1A・s である。	1A は、1 秒当たりに 1C の電気量が通過するときの電流の大きさである(1A = 1C/s)。 $t[s]$ 間に $Q[C]$ の電気量が通過するときの電流の大きさを $I[A]$ とすると $I = \frac{Q}{t}, \quad Q = It \quad (1)$ が成り立つ。
前見 返し C		(「電気量」の行の「単位の間関係」) 1C = 1A・s (「電流」の行の「単位の間関係」) ※追加	※削除 1A = 1C/s
272		電気素量 $1.6021766208 \times 10^{-19} \text{C}$ 電子の質量 $9.10938356 \times 10^{-31} \text{kg}$	$1.602176634 \times 10^{-19} \text{C}$ $9.1093837015 \times 10^{-31} \text{kg}$ ※物理定数の詳しい値を CODATA2018 推奨値に更新